

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200685		
法人名	社会福祉法人 藍山会		
事業所名	グループホーム 然(1F)		
所在地	岡山県倉敷市連島中央4丁目10-30		
自己評価作成日	2014年7月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JivvosvoCd=3390200685-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-612-2		
訪問調査日	平成26年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あるがままに」「共にあるを大切に」を事業所のコンセプトに掲げ、個人の尊厳と人権を尊重しながら、その人らしい人生の実現を目指しています。コンセプトを実践すべく「行動規範」を掲げ、職務を遂行する上での戒めとしています。また、利用者に対しては、日常生活をスケジュール化しないで、その時どきの個々の思いや生活習慣を大切にしながらの柔軟な支援を心がけています。趣味を生かした余暇活動、散歩、買い物等を楽しんでいただいています。食事は、昼食、夕食を外部に委託して、その分職員が利用者にも十分関わりが持てるようにしています。また、1階では、身体機能向上に向けてのリハビリや口腔内環境改善のため専門家と共用共働して取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「あるがままに」の実現に力を入れている。利用者が事業所を離れて行方不明になったが、地域の人々の協力により、無事に見つかった。このようなことがあると、利用者を管理し、閉じ込める方向に走りがちだが、「閉鎖されない空間が絶対に必要であり、鍵・言葉・身体3つのロックをしない」という信念を貫き、今までと変わらず、玄関の施錠などはしていない。事業所開設から3年が経過し、利用者ごとに生活の質であるQOL(Quality of Life)が保て、向上できるよう、今まで以上に健康管理を強化している。そして各人の異なる心身の状態を踏まえ、専門家の手を借りつつ、リハビリテーションや口腔ケアに力を入れている。その結果、心身状況が改善した利用者が多く、室内で車いすを使用する人はだれもいなくなった。地域との協力体制も強化された。幼稚園児や児童、生徒の来訪行事が定着し、消防団にも入った。住民の理解も進み、近所の棟上げにも招待してもらえるようになった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアに迷った時は理念に立ち戻り、考えるようにしている。 理念は、いつでも目に入るようリビングの壁面に掲げている。	理念である利用者の「あるがままに」とはどのような状態かを、施設長は日頃から話し、職員もよく理解している。利用者は各々のペースで穏やかに生活している。介護者側の行動規範となる「楚々として凜として」も職員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りに行かせて頂いたり、ボランティアの方や小学生も慰問に来て頂き、交流を図っている。 地域の消防団にも入れさせていただいている。	散歩で近所の人に会えば、挨拶を交わしている。地域の人々に次第に受け入れられてきた。中学生は琴の演奏を披露し、幼稚園児や小学生もそれぞれ来訪し、利用者との交流を楽しんだ。地区の医療・福祉機関の連絡会議に参加し、地域の情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域の方への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で伺った意見は、施設内の会議にも取り上げ、サービス向上に活かしている。 また、地域の行事などを教えて頂き、積極的に参加させて頂いている。	運営推進会議を通じて、利用者が行方不明になった時や、防災に関しての地域との協力体制が明確化した。会議には、利用者、家族、地域包括支援センター、民生委員、他のグループホーム、地区の学校長などが集い、意見が交わされている。	近隣の高齢者向け多目的施設で会議を開催しているため、参加者が事業所内の実際に見ることができない。事業所の見学や試食などを合わせて実施することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事や不明な点があった際は、担当者へ連絡し、お答えや助言を頂くようにしている。	市の介護相談員派遣制度を活用し、利用者の不安や疑問の解消を図ると共に、サービスの向上につなげている。地域包括支援センターは毎回、運営推進会議に参加し、情報を交換している。毎月、地区の医療・福祉機関の会合にも参加し、互いを知るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠をせず、どこからでも自由に入出りが出来るようにしている。ただし、夜間は防犯のため施錠は行っている。 また、毎月のフロア会議で身体拘束について学び、普段の行動について振り返る機会を作っている。	玄関を含め施錠は一切ない。外に行きたい利用者がいれば、職員がついていく。研修やミーティングで身体拘束をしない大切さを理解し、管理者は日頃から注意をしている。しかし、言葉遣いに関しては職員による差があり、命令形や強い口調で利用者に接する人もいた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修は行っていないが、毎月のフロア会議で高齢者虐待について話し合い、理解を深め、普段の行動について振り返る機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員への研修は行っていない。 すでに、成年後見制度を活用されている方もいらっしゃるのでは、関係者との交流は図れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書をご説明のうえで同意を得ている。不明な点があれば、その都度ご説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的に行い、ご意見は伺うようになっている。また、玄関には意見箱も設置し、いつでもご記入いただけるようになっている。 それらのご意見は、運営推進会議でもご報告させて頂いている。	2か月ごとの家族会には3～4名の家族が出席し、意見交換の重要な場となっている。玄関に運営推進会議の議事録などが置かれ、だれでも閲覧できる。1階ユニットには利用者ごとに家族との対応を記したノートがあり、職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議で職員の意見や提案を伺っている。また、個別に面談を行い、不安や不満を取り除くように努めている。	管理者は日頃から「困ったことはない？」と職員に問いかけ、職員の声に耳を傾け、相談にのっている。提案があれば、議案として会議に出せる。最近の提案で、休憩時間と業務分担が変更され、より働きやすくなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談の中で、業務に対しての不安や労働条件などへの不満がないかを尋ね、解消につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	太陽の丘への内部研修や外部機関への研修にも出席して頂く機会を作り、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大きな行事には参加して頂き、利用者・家族・職員と関わって頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、その方に必要な支援を確認している。 また、ご自宅との環境が変わらないよう、ベッドの位置やトイレの場所など、可能な限り近い環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際に、お困りの事やご要望を伺い、プランに活かせるように努めている。 プランの更新時も同様にご意見を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談は時間を掛け、入居と同時に必要な支援を提供できるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に在るを大切に」をコンセプトに日々のケアに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へも情報を伝え、ケアの方向性を相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院は今まで行かれていた所へ行って頂けるように支援し、関係を継続できるよう努めている。	馴染みの美容店に行きたい利用者には職員が送迎している。家族や知り合いの来訪時には、利用者と存分に話ができて、また来ようと思ってもらえるよう、職員が笑顔で迎え、居室に椅子やお茶を置く台を持っていく。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳が遠い方が多く、会話でのコミュニケーションが難しい為、レクリエーションや家事の中で交流して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからのコミュニケーションは、あまり取れていない。 相談がある時は、しっかりお話を伺い、可能な限りのフォローをさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話から意向や想いを聞き取るように心がけている。	家に帰りたい、買い物に行きたいという利用者には、近場であれば、職員が車で連れて行く。各人の生活歴や家族をシートに記し、カンファレンス時に職員間で共有する。意思疎通が困難な人や自発的に希望を言わない人には、シートの情報を元に、職員から外出などを誘ってみる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に伺い、生活環境やリズムが変わらないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合わせた一日の過ごし方を提供できるように努めている。 その方が、どこまで出来るのかを把握し、出来る事はしっかりして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランの更新時など、カンファレンスで話し合い、多方面の意見を取り入れたプランを作成している。 また、フロア会議でも個々のニーズを話し合う時間を設けている。	利用者ごとに担当職員を決め、その職員が中心となり、モニタリングをし、生活記録を参考にしつつ、介護計画を練っている。本人や家族とは面会時や計画を作る時に意見を聞き、それを盛り込んで作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や業務日誌を活用し、気付いた点は申し送っていくようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型に捉われないよう心掛けているが、サービスの多機能化までは至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに「老人憩いの家」があるが、まだ活用は出来ていない。 幼稚園の行事へは、参加させて頂いている。 小学校や中学校からの慰問は、受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族へ意向を伺い、馴染みの病院をご希望されれば引き続きご利用いただいている。	往診が安心して便利だと、かかりつけ医を協力医や訪問診療専門機関に変える人が多い。外での受診時は、基本的には職員が付き添い、家族に喜ばれている。薬の変更があった時などは、家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療に関する相談ごとは、訪問看護ステーションに相談し、判断して頂いている。 緊急時も、同様に電話連絡し、指示を頂く。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状に合わせ、担当SWと連携を図っている。 また、地域医療連携室主催の情報交換会にも参加し、より密な関係を保てるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ、前例がないため、対応できるように環境を整えているところである。 訪問看護ステーションとは、日頃よりコミュニケーションを密に取り、即座に対応できる関係を作っている。	新たに重度化や終末期のケア方針を文書化し、家族に説明し、同意を取った。看取りはまだないが、希望があればできるように、24時間対応可能な医療機関と連携した。職員の看取り介護の研修受講や、訪問看護事業所に話をしてもらおう機会を計画し、体制を徐々に整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日本赤十字社の講師に来て頂き、救急法・蘇生法の講習を行った。 誤嚥のための吸引ノズルや人工呼吸が出来るためのQマスクはフロアに配置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、日頃から防災意識を高めている。 その際は、火災だけでなく地震や水害の際の対応についても話し合うようにしている。	昨年、災害対策マニュアルを改訂し、車での避難方法を含めた。家具に転倒防止を施すなど、地震や風水害の対策も実施している。職員は消火器の位置や緊急通報装置の使い方を理解している。年1回、運営推進会議に消防署を呼び、対策などのアドバイスを得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より声掛けには気を遣うよう指導している。個人情報、利用者へ聞こえないような配慮も心掛けている。 入浴介助や排泄介助の際は、人目に触れにくいよう、配慮している。	利用者へ「～にしますか？」と丁寧に穏やかに言葉をかける職員もいれば、「～しよう」「～して」とくだけた言葉や、少しきつい口調で「～してください」と命令形を使う職員もいる。「おっしょは？」という声も時々聞こえた。	職員によって言葉づかいに差があり、事業所としての標準が何かをしっかりと確認し、意識の統一が図れるよう、期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、衣類や飲み物など、ご本人を選んで頂く機会を増やせるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのような場面でも、ご本人の意思を尊重し、出来る限りご希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院がある方は、そちらを利用し、好みの長さにカットして頂いています。 毎朝、寝ぐせ直しスプレーを使い、身だしなみを整えている。また、男性利用者は、毎朝の髭剃りを欠かさず行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は行えていないが、盛り付けや片付けは一緒に出来るように努めている。	一部の利用者はテーブル拭きや洗い物を積極的に手伝っていた。月に1～2回の手作りの日には、利用者と一緒におやつ作りに挑戦する。利用者を楽しんでもらうため、個別の好き嫌いにも対応している。最近、食事の事業者を変えてから、食べ残しが減った。	検食簿があるが、「おいしくいただきました」か何の記載もない日が続いている。率直な意見と食べ残しの量を記載して、事業者フィードバックし、より質の高い食事となるよう、期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔状態・嚥下状態を確認しながら、食形態を検討し、その方に合った食事を提供している。 日頃の食事にも注意し、必要な方にはトロミ剤を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほぼ自立されている方へのアプローチは、不十分だが、殆どの利用者に対し、毎食後の口腔ケアが行えている。必要な方は、訪問歯科に治療を頂き、ケアの指導を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄リズムを把握できるようにしている。 また、出来る限りトイレで排泄して頂けるように努めている。	自分でトイレに行ける利用者が多い。排泄記録は付けているが、うまく用を足せない人の介助や、トイレの場所がわからない場合の誘導など、最小限の支援に止めている。おむつの使用者はいない。トイレはきれいに清掃されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料を飲んで頂いたり、バナナなどの食物繊維の多い物を召し上がって頂いたりし、出来る限りお薬に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は13時～16時頃と概ね決められているが、ご本人の意向に合わせて対応している。曜日や頻度は特に定めていない。 午前中の入浴を好まれる利用者がいらっしゃり、可能な限り対応している。	週2回の入浴を基本とし、ゆっくりと入浴できるようにしている。夜間も20時頃までなら入れる。汗をかく時期は、回数を増やしている。利用者職員とが1対1になれるため、利用者は心おきなく話をし、寛げる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調を考えながら休息を取って頂いています。 不安の強い方は、出来る限り寄り添って安心して頂くように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂いたお薬の説明書を個人ファイルに綴じ、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みを伺い、ご本人に合った生活を送って頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や紅葉狩りなどの外出時は、家族の協力も得られ、一緒に参加して頂いている。 ご本人の希望に応じ、散歩や買い物などの支援は、可能な限り行っている。	「共に行動」の理念に沿って、週1回程度、事業所の買い出し時に利用者を誘い、買い物に出かける。近所の幼稚園にも時々行く。気候の良い時は、近くの公園などへ毎日希望者のみで散歩する。敷地隣の菜園を手伝う人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はしていませんが、ご自分で管理されている方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や電話など、ご本人が希望されれば、支援させて頂いている。 難聴で、電話でのコミュニケーションが難しい方は、間に入り、お話をつなげるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは白熱色と蛍光色の2種類の照明を用意し、時間帯などに応じて使い分けている。 また、季節感を味わっていただけるような壁画を作成している	「落ち着ける空間」にするため、照明をあまりつけないで、自然採光に頼り、壁の派手な飾り付けもない。季節の絵や利用者の作品を展示し、観葉植物などを配置し、適度な潤いを出している。掃除、整理整頓が徹底し、清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を設置し独りで過ごせる場所も確保している。仲の良い利用者さんはお互いの居室で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物をなるべく持って来て頂いている。家具の配置は本人、家族と相談して決めている。	備え付けの家具はなく、ベッドやたんすなど、好きなものを使える。床に畳を敷いて、和室仕様になっている居室もある。仏壇、位牌、冷蔵庫などを持ち込み、その人にとって安心できる空間にしている。掃除は毎日行い、清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送って頂けるよう必要に応じて貼紙などして、分かりやすい工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200685		
法人名	社会福祉法人 藍山会		
事業所名	グループホーム 然(2F)		
所在地	岡山県倉敷市連島中央4丁目10-30		
自己評価作成日	平成26年7月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JivvosvoCd=3390200685-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-612-2		
訪問調査日	平成26年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あるがままに」「共にあるを大切に」「楚々として凛として」の3つを事業所のコンセプトに掲げ、個人の尊厳と人権を尊重しながら、その人らしい人生の実現を目指しています。コンセプトを実践すべく「行動規範」を掲げ職務を遂行する上での戒めとし、日々の業務を振り返りながら課題を見つけ改善に向けての取り組みをおこなっています。また、利用者に対しては、日常生活をスケジュール化しないで、その時どきの個々の思いや生活習慣を大切にしながらの柔軟な支援を心がけています。趣味を生かした余暇活動、散歩、催し物への参加等を楽しんでいただいています。体操やリハビリ、口腔ケアは、個別性を重視し、PTや歯科衛生士等の助言を受けながら行っています。食事は、外部に委託して、その分職員が利用者には十分関わりが持てるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所のコンセプトをフロアに掲げて職員がいつでも目に触れることが出来るようにしている。それによって、職員が統一した意識を持ってケアが行えるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の防災訓練の一環として非常食の配布を受け、試食させて頂いた。また、近所の棟上げにご招待を受け餅拾いに参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の中学生が毎年琴の演奏会で定期的に訪問して利用者との交流を図っている。将来的には、介護相談窓口の開設を考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の運営状況を説明し、様々な意見を拝聴している。また、会議を通じて、地区の催し物に参加する機会を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の相談等について、指導、助言をもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や毎月のミーティングにおいて、身体拘束についての研修を行い理解を深めている。離脱事故を踏まえ生命の安全を第一に考えて、見守りの職員体制が薄い時や夜間は止むを得ず内ドアの施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やミーティングにおいて、高齢者の虐待についての研修を行い理解を深めている。グレーゾーンについてもその危険性を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している利用者の介護を通して制度の内容については、そのかわりの中で理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に説明をさせて頂いている。疑問点や要望などについてもお尋ねし、不安解消に努めている。理解と納得を得られてから、署名・押印を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回の割合で、家族会を開催している。事業所の運営状況や利用者の様子について説明を行い、ご家族からも意見や要望についてお話を伺っている。また、面会時にしっかりお話を伺うようにしている。玄関に意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を毎月開催し、業務改善について職員の意見や提案を聞く場としている。夜勤者用に電気スタンドを購入したり、来客者の接待用にテーブルを購入するなど、職員の意見が反映されているものがある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて職員との面談を行い、メンタル面での支援や就業に対する姿勢、やりがい等話を聞くようにしている。また資格取得に関して、勤務調整を行うなどの配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に毎月参加してもらうようにしている。職員の負担が大きくなるように、勤務時間内の研修参加を心がけている。新人職員に対しては、1か月以上の研修期間を持ち、丁寧に指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム事業者の専門分科会に代表者が参加している。意見交換や交流を通して、サービスの質の向上に努めている。職員においては実践出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談を受けた後は、本人や家族と面談の時間をとって、状況把握に努めるようにしている。またサービスの内容を説明し、本人や家族の要望等についても詳しく伺い、入居後に安心して生活してもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークから契約までに、家族と面談の機会が何回かあるので、その都度、不安なことや要望等については話を伺いながら説明をして、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談時に、本人や家族の状況を伺って、必要なサービスについての助言を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所のコンセプトである「共にあるを大切に」を常に念頭に置き、一人一人に寄り添った支援を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子や意向を伝えて面会をお願いしたり、外出や外食を共にされることがある。報告・連絡・相談を密にして、家族と本人とを繋ぐパイプ役を担っている。またイベントには案内を行い、共に楽しい時を過ごせるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達との外食や外泊を楽しんでもらっている。また、面会時には居室でゆっくりお話を楽しんでもらえるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士を同じテーブルにして会話を楽しんで頂いている。またクラフト作業や歌をうたう時には他の利用者同士も関わりを持てるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方の息子様が仕事関係で来られることがあり、その後の様子をお話し下さったり、差し入れをして頂いたこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に本人より暮らし方の希望や思いについて話を伺い、また日常生活を通して本人の意向を察するように努めている。意思疎通の難しい場合は、家族から本人の歴史や人柄を伺って、思いに添えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族に本人の「ヒストリー」をわかる範囲で記入をお願いしている。また、在宅で生活していた時のアセスメント等で情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月カンファレンスを実施し、職員間で情報を共有している。また、介護記録や業務日誌により、情報を申し送っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当者を決め、担当者を中心にカンファレンス・モニタリングを行っている。本人や家族の意見を聞いたり、生活の中から課題を見つけそれに適した支援方法を介護計画に落とし込むように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子や支援内容を介護記録に記入している。また、毎日、午前午後と申し送りをすることによって、職員間の情報の共有を密にして、モニタリングや支援方法を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の送迎や立会いなど、状況に応じて行っている。また、友人宅や自宅に外出する時も、送迎を行うことがある。生活必需品の調達も家族の依頼によって行っている。入院時には必要な物品を随時届ける等支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域の理容店に訪問をお願いしている。また、地域の米屋から配達をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院による往診をお願いしている。従前のかかりつけ医での受診を希望されている方については、家族と連絡を密に図りながら、状態や服薬等の把握に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調管理や服薬管理、受診等については、訪問看護師に随時相談しながら行っている。指示内容については、業務日誌や訪問看護記録書に記録をお願いし申し送りにより指示内容を介護職が適切に行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供を行っている。また、病院にも足を運んで本人と面会し、安心して治療を受けてもらえるように配慮している。退院が決まれば、主治医、担当看護師、ソーシャルワーカーと今後の支援方法を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、重度化や看取り介護の希望はありませんが、希望があれば、看取り介護も行いたいと考えている。そのための体制作りが課題である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡網や対応については、フローチャートで把握出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回、水島消防署の指導の下、避難訓練を予定している。夜間を想定した訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼称は「～さん」とし、愛称や「～ちゃん」と呼ばない。排泄介助や入浴介助では、羞恥心に配慮し他者の目に触れないように配慮している。また、居室を訪室するときは、ノックや声掛けをしてから入室するように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢の中から選んでいただけるような声掛けを心がけている。意思伝達が出来ない方には、日々の生活パターンから推測して希望を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買い物、美容院等、希望があれば出来るだけ意に沿えるように支援している。また、日常生活をスケジュール化しないで、本人の希望することをして過ごしていただけるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やカラーリングを希望される時は、理美容への送迎をしたり、訪問理美容をお願いしている。いつも清潔な服装を身につけていただけるように洗濯をこまめに行っている。季節ごとに衣類の入れ替えをご家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に嗜好を尊重した食事を提供している。食事の前には口腔体操を行い、嚥下に留意している。食前食後のテーブル拭きは利用者が行っている。畑で収穫した野菜を提供することもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事や水分の摂取量を記録している。食事量や水分量が減っている時は、その原因を究明し対応を考えている。体調管理のみならず、認知症状のパロメーターと理解している。水分確保に嗜好に合った飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。必要に応じて介助をしている。入所後は訪問歯科検診をお願いしており、口腔状態や治療の必要性について診断してもらっている。また、歯磨き指導もしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間や回数を記録しており、それをもとに排泄の間隔を把握するように努めている。また、仕草や様子から排泄のサインを読み取れるように心がけている。夜間、Pトイレを使用している利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便周期に合わせて、便秘している人には、服薬コントロールを行っている。また、水分摂取を促したり、体操や散歩などの運動を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外、毎日入浴を行っている。一日3人ぐらいを目安に、のんびりと入浴出来るように配慮している。また、暑い日にはシャワー浴も随時希望に応じて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を高めることで、夜間の安眠が確保出来るように心がけている。休息の時間については、本人の意思を尊重しており、決めていない。夜間の不眠については専門医と相談し睡眠障害の治療を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能書を個人ファイルで管理しており、いつでも確認出来るようにしている。日々の服薬の有無については業務日誌に記録し、服薬の変更や追加がある時は、業務日誌と申し送りノートに記入し、職員間で確認し把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や裁縫など馴染みのある仕事を可能な範囲でしていただいている。毎日新聞を読むことを日課とされている方やコーヒー好きの方には、ゆっくり楽しむ時間を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時候の良い頃には近所を散歩したり、ドライブ兼ねて藤の花を見に出掛けたり、地域の花展にも出掛けた。毎月、イベントを計画しており外出の機会を計画している。また、受診時に時間の余裕があるときには、景色を楽しめる道を通ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は、殆んどいない。事業所の立て替えで、パンや菓子類などの買い物をする時は、職員が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持され、自由に電話を使用している利用者はいるが、殆んどの利用者が電話や手紙のやり取りを希望されることはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に季節の花を飾ることが多い。また、居間には温度計・湿度計があり、快適な空間を維持するための目安にしている。空気清浄器を2台、冷暖房エアコンを2台設置している。居間の南側には大きな窓があり、採光には十分である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置いて、少人数あるいは独りになれる空間を作っている。TVの前にはソファを置いてくつろぎのスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の種類や配置等は本人や家族にお任せし、使いやすく落ち着ける居室にいただいている。壁には、カレンダーや写真など気に入ったものを貼って楽しんでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室ドアの横に住所・氏名を書いた表札を掲げ、また他者が誤って他室に入らない様にドアにも貼り紙をして理解を得やすいようにしている。廊下の両サイドには手すりが設置しており、安全に移動出来る。		